

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会  
第7回 議事録(要旨)日時：平成29年2月16日(木)  
場所：各務原市役所、岐阜県庁

## 参加者一覧

出席者	安藤 辰夫 大塚 之稔 西條 好迪	(一財)自然学総合研究所技術顧問 日本野鳥の会岐阜代表 (一財)自然学総合研究所所長
事務局	長瀬 主税 籠橋 敦志 他2名	恵那土木事務所道路建設課技術課長補佐 恵那土木事務所道路建設課主任技師 大日本コンサルタント株式会社

## 濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会 議事録(要旨)

議題	発言者	番号	意見の主旨	当日の回答
<b>1. これまでの経緯について</b>				
	検討会委員一同	1	これまでの検討会の経緯を再確認した。	—
<b>2. H28繁殖期の調査結果について</b>				
	事務局		第6回検討会以降の調査で新たに得られた情報を報告した。	—
	検討会委員	2	近隣開発事業者からの情報である千旦林南地区のオオタカに関して、調査方法の詳細や、今年度の結論に至った理由について、確認しておくことが望ましい。	近隣開発事業者に対し、情報の有無を含め確認する。
<b>3. 今後の中長期スケジュールについて</b>				
	事務局		現時点で工事着手時期は未定であるため、暫くはオオタカの繁殖状況のみの確認を行っていく予定。(⇒各委員了承)	—
	検討会委員一同	3	今後の中長期スケジュールについて、事務局提案で了承する。	—
<b>4. オオタカの営巣適地解析について</b>				
	検討会委員	4	岩屋堂地区の樹林にて宅地造成による樹林伐採や小火騒ぎがあったにも関わらず、H28年繁殖期の繁殖が成功した理由は、以下2点が考えられる。 1. 里山環境に定着しているため、人の行動は気にしない個体であること。 2. 他の箇所と比較して、比較的良い箇所がH26営巣木であったこと。	周辺環境の変化も含め、引き続き、オオタカの繁殖状況を把握するための調査を実施していく。
	検討会委員	5	H26・H28営巣木の付近には人家や道路が存在しているため、人に対してはある程度慣れが生じているものと考えられる。今後も引き続き、周辺環境の変化やオオタカの繁殖状況を確認しながら、様子を見守っていくことで良い。	同上
	検討会委員	6	道路に近接する樹林でオオタカが繁殖に成功した事例もある。突発的な音に対しては反応するが、連続的な音であれば慣れが生じるのではないかと思われる。 営巣適地解析による評価は、宅地造成による樹林伐採前後の飛翔記録を整理し、主な行動範囲を比較していくのも良い方法と考える。岩屋堂地区のオオタカの特性を踏まえながら、営巣適地解析を行うこと。	今後、岩屋堂地区のオオタカの特性を踏まえながら、営巣適地解析は周辺の社会環境変化の情報も併せついで検討していく。
<b>5. その他</b>				
	検討会委員	7	岩屋堂地区の樹林内で予定されている間伐により、林内での飛翔空間が確保され、生息環境の質が向上することが期待される。伐採については、オオタカの繁殖に影響を与えないよう作業方法に配慮すること。	—